

ARDEC



World Agriculture Now December 2020



特集

**レジリエントな農業を目指して
—気候変動と新型コロナウイルス—**

第63号

OPINION

「土と文明」再考

—W.C. ローダミルクの業績と貢献

京都大学名誉教授、国際土壌科学連合名誉会員

久馬一剛 2

農業の生産性が高まって食料の余剰が生み出されたことにより、直接には農耕に携わらない人々が出現し、手工芸やその製品の商いに携わる人、祭祀や学芸に専念する人が生まれ、それらの人々が取引や情報交換の必要から一定の場所に集住して都市ができたと考えられる。そういう都市を統制する必要から統治機構が出現し、社会階層の分化が起こり、富と知識・技芸の蓄積が行われ、文明が花開くことになる。

しかし歴史をひもとくと、こうして生まれた文明も、＜中略＞その多くは短命に終り、先述のように、一地方において30-70世代（およそ800-2000年）以上にわたって進歩的な文明を維持することはできなかった。＜中略＞

ローダミルクは＜中略＞第11戒を次の言葉であるとした。『＜中略＞汝の農地を土壌侵食から護り、汝の飲み水が涸れ上がらないように気をつけ、汝の森を荒廃させないように護り、汝の家畜の群れによる過放牧から丘陵を保護するであろう。もし汝が＜中略＞これらの務めのどの一つを仕損じたとしても、汝の稔り多い園地は不毛な石だらけの土地と役立たずのガリーと化し、＜中略＞貧しさのなかに生きるか、さもなくば大地の表面から消え失せてしまうであろう。』＜後略＞（抜粋）

SPECIAL ISSUE

レジリエントな農業を目指して

—気候変動と新型コロナウイルス—

特集解題

国内技術検討委員会委員長 松浦良和 8

持続可能な人類文明と農耕畜産の在り方

長崎大学熱帯医学研究所 教授 山本太郎 11

気候変動による

降雨パターンの変化と水利用

秋田県立大学生物資源科学部 教授 増本隆夫 16

乾燥地における

水管理のレジリエンス強化

—水不足と気候変動に対処する新たなパラダイム—

鳥取大学名誉教授 北村義信

元鳥取大学特別招聘教授、元国際乾燥地農業研究センター

水土地生態系プログラム・ディレクター ディープ・オウエイズ 21

干ばつ常襲地帯における

食料安全保障へのレジリエンス構築

—ザンビア南部州でのソルガム再興のための普及試行—

一般財団法人 地球・人間環境フォーラム

研究推進ユニット 研究官 宮崎英寿

青森公立大学地域連携センター 専任研究員 石本雄大

ザンビア農業研究所 研究官 ジョン・バンダ

京都大学大学院農学研究科 教授 梅津千恵子 26

COVID-19とグローバル・フードシステム

国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター(JIRCAS)

研究戦略室 室長 飯山みゆき 31

サブサハラ・アフリカ地域の

稲作振興計画の現状、COVID-19対応、並びに今後の展望

アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)事務局

ジェネラル・コーディネーター 羽石祐介 36

INFORMATION CHANNELS

□ INFORMATION

マラウイ:

自然豊かな国に住む、満たされない人々

前駐マラウイ大使 柳沢香枝 42

□ BOOK INFORMATION

『2030年のフード&アグリテック』

—農と食の未来を変える世界の先進ビジネス70—

佐藤光泰・石井佑基 共著 44

□ TREND

—JIID から—

『一度は訪ねてみたい日本の原風景』および

『一度は訪ねてみたい日本の水と土』の発刊 46

ベトナムにおける

モデル圃場整備調査事業の実施

48